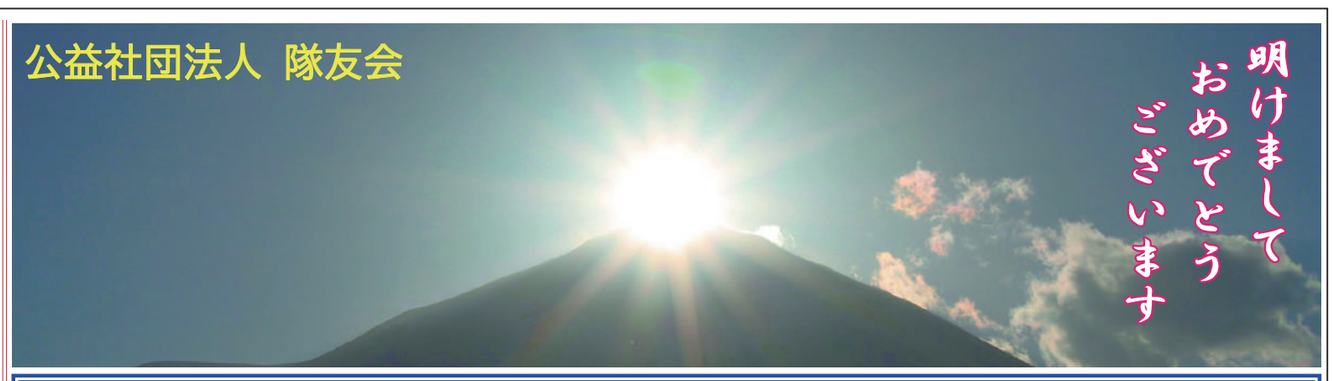
公益社団法人　隊友会　https://www.taiyukai.or.jp/

陸海空自衛隊は、今年度から、災害等発生時における隊員及び隊員家族の安否を確認するための「安否確認システム」を全部隊に導入しました。
詳細は２月号に掲載するほか、隊友会公式Ｘ（旧 Twitter）でも公開しています。

隊友

令和６年１月15日
第837号　毎月１回・15日発行
発行所　公益社団法人 隊友会本部
〒162-8801 東京都新宿区市谷本村町５番１号
電　話　03（5362）4871・FAX4876
購読料　１カ月 120 円（税込み送料別）、１カ年 1,400 円（税込み送料共）
kouhou@taiyukai.or.jp

隊友会の**新ベスト**が完成しました。
２面及び５面に着用記事がありますのでご覧ください。



新年のご挨拶

公益社団法人 隊友会 理事長 岩﨑 茂

隊友会会員の皆様、そして普段から我々の機関紙「隊友」をご愛読して頂いております皆様、新年おめでとうございます。また、日頃から当会の活動にご参加頂いておられる皆様、そして、私どもに対します叱咤激励、ご理解、ご協力頂いております皆様に改めまして、感謝・御礼申し上げます。

昨年の世界情勢を顧みますと、一昨年の2月から開始されたロシアのウクライナ侵攻は、残念ながら未だに継続されており、もう開戦から二年を迎えようとしております。また、昨年10月には、誰もが予想し得なかったハマスによるイスラエル攻撃とこれに対するイスラエル軍の反撃事態が生起しています。そしてイエメンの親イラン組織であるフーシ派が紅海で日本郵船がチャーターした貨物船を拿捕する事態が発生し、その後もこの地域を通過する各国の商船や貨物船が攻撃を受ける等、この方面の物流が危機に陥りつつあります。

我が国周辺では、中国の海警局所属の船舶が依然として我が国固有の領土である尖閣諸島周辺で遊弋し、時々領海侵犯を繰り返しています。また、台湾周辺では、中国海軍の艦船が公海上を航行中の米艦船に対する異常接近や、中国の戦闘機が公海上空を飛行中の米軍機に衝突寸前まで近づく等のハラスメント事案が起こり、更に、中露の連携強化を誇示するかのような、中露の爆撃機等の共同飛行や中露艦船による共同警戒航行等を度々行っています。北朝鮮は弾道弾の発射を度々繰り返しており、最近では米国本土をも射程に入れるほどの性能と言われている「火星18」の発射、更に次なる核実験の準備をしているのでは？との報道もなされており、全く気を休めることが出来ない緊迫した状況が世界でも我が国周辺でも続いています。

我々隊友会は、昭和47年（1972年）以降、毎年憲法の改正や防衛政策、隊員の処遇改善等の政策提言を防衛省や防衛大臣等に行っております。一昨年の年末に閣議決定された「新安全保障関連三文書」にも、我々の政策提言の多くが取り上げられたと自負しております。この政策提言は、平成28年（2016年）以降は、偕行社、水交会、つばさ会とともに4団体合同で行ってきております。昨年もこの政策提言を防衛大臣や4幕僚長を始めとする防衛省幹部、自民党政調会長、自民党国防部会及び安全保障調査会、公明党党首及び同党幹部にご説明致しました。昨年の政策提言の主な重点項目は、①憲法改正（自衛隊の憲法への明記）、②防衛に関する基本政策の見直し（専守防衛に代わる新たな理念の検討等）、③反撃能力の整備と運用（態勢整備等）、④全領域への対応（ウ・サ・デン・情報領域等への取り組み）、⑤人的基盤の強化（国全体としての人的資源配分、隊員の処遇改善、元自衛隊員の活用等）、⑥台湾危機への対応（紛争抑止、日米協力、対処計画策定等）、⑦防衛生産・技術基盤等の強化及び防衛装備移転戦略策定の7点です。細部は隊友会のホームページからアクセス可能ですので、是非ご覧ください。

隊友会は、皆様ご承知のとおり、「国民と自衛隊とのかけ橋」を目的に掲げる陸海空自衛隊の最大の退職者団体です。その歴史は長く、昭和28年（1953年）に松本市に「保友会」として結成され、昭和34年（1959年）に全国組織として43の退職者団体が「隊友会」を結成することとなりました。今年は「隊友会」になり65周年を迎えますが、最近では、時代の変化とともに随所に経年変化も散見される様になりました。中でも会員数の漸減、地方組織の高齢化は深刻な状況になりつつあると感じております。これらの諸問題に対する特効薬は未だ見いだせておりませんが、早急な対策が必要と感じております。是非皆様方の私どもに対します暖かいアドバイスと更なるご支援・ご協力をお願い申し上げ新年の挨拶とさせて頂きます。

最後に、能登半島地震で活動中の皆様に敬意を表するとともに、一刻も早く被災地の復旧と平穏が戻ることを祈念いたします。

隊友会が後援

全自ラグビー及び弓道大会が開催

隊友会が後援する全自衛隊大会のうち、ラグビー及び弓道大会が11月から12月にかけて開催された。（写真は各協会提供）

第63回全自衛隊ラグビー大会

主催：防衛省ラグビーフットボール大会

競技は11月29日から12月6日の間、秩父宮ラグビー競技場、松戸駐屯地、習志野駐屯地及び空自入間基地において、駐屯地・基地単位（合同を含む）で選抜された13個チームが、A、B、Cの3個ブロックに分かれ競い合った。4個チームのAブロック及び6個チームのBブロックはトーナメント制、3個チームのCブロックはリーグ戦で行った。

秩父宮ラグビー競技場で行われたAブロック決勝は船岡駐屯地チームと習志野駐屯地チームが対戦し船岡が優勝、入間基地で行われたBブロック決勝は入間・百里基地チームと善通寺チームが対戦し、入間・百里が優勝、Cブロックは北熊本・湯布院チームが優勝した。

なお、Aブロック優勝の船岡駐屯地は今回で19連勝となる。

また、隊友会賞である優秀選手賞が、Aブロックからは、船岡駐屯地所属の三浦龍斗陸士長が、Bブロックからは、大滝根分屯基地所属（入間・百里チーム）の黒木誠空士長が、Cブロックからは、北熊本駐屯地所属の本村友輝3等陸曹が選出された。

【ラグビー】 船岡チームと習志野チームのスクラム

【ラグビー】 優秀選手賞（隊友会賞）の受賞式

第48回全国自衛隊弓道大会

主催：全自衛隊弓道連合会

競技は、12月10日、全日本弓道連盟中央道場である明治神宮至誠館第二弓道場で実施された。参加者には1級以上の資格を有する自衛隊員のほかに自衛隊OB等（個人戦のみ）も含まれ、駐屯地・基地等から選抜された3名のチームによる団体戦と個人戦が行われた。

団体戦は一人8射（チームで24射）の的中を競う団体戦Aと射道（射の美しさや、入退場の姿勢を評価）を評価する団体戦Bがあり、団体戦Aは那覇Aチームが優勝、団体戦Bは千歳チーム（ともに空自）が最優秀となった。

個人戦は、団体戦での成績をもとに、五段以上の部、参・四段の部、弐段以下の部及び女子の部に別れ、五段以上の部では中村元彦選手（市ヶ谷）が、参・四段の部では鈴木誠選手（千歳）が、弐段以下の部では樋之口直紀選手（春日）が、女子の部では二宮恵子選手（宇治）がそれぞれ優勝した。

また、自衛隊OB等は、隊友（有段）の部では中川美和選手（埼玉県）が、隊友（称号）の部では杉山義光選手（茨城県）が優勝し、それぞれ隊友会理事長賞として楯が贈呈された。

【弓道】 大会全景

【弓道】 隊友（称号）の部で優勝した杉山義光選手

【弓道】 隊友（有段）の部で優勝した中川美和選手

隊友会寄付者芳名

滋賀県特別会員
奥村直広　様　1万円

陸上自衛隊
高木勝也　様　1万円

航空自衛隊
田中　裕　様　1万円
上境賢己　様　1万円

（順不同、十二月二十八日現在）

発煙筒

「中央防衛セミナー」

中央防衛セミナー
２次元コード

最近、コメンテーターとしてTV出演する自衛隊OBが増えてきました。部隊運用等の経験を踏まえたコメントは評論家と違い説得力があります。機会があってそのOBに「必要な情報はどうやって入手しているのですか？」と尋ねてみました。すると「1日5から6時間はYouTube動画やニュースサイトをチェックしている。ただしネット情報は玉石混交なので、正確性の検証が不可欠だから、現役時代と同じくらい勉強している」との返事でした。長時間を費やすことも厭わず情報を集め、正確な発信を心がける先輩の責任感に頭が下がりました。そこまで熱心に勉強を続けることができるか否かは別として、これから勉強してみたい方にきっかけの一つになる「中央防衛セミナー」を紹介したいと思います。

このセミナーは隊友会の公益事業の一つとして毎年開催されています。企画審議の際に折木理事長（当時）より「広く国民に向け発信し、軍事に限らず一般の関心が高いテーマをわかりやすく学ぶことができるようにせよ。かかる講演を行うことも隊友会が目指す『かけ橋』である」との指導がありました。そこで今年は「米中対立のなかで我が国の安全保障を考える」をテーマに選定し、中国の立場から見た米国と、逆に米国の立場から見た中国という両方の内容を一度に聞くことができるよう、中国政治・外交の専門家である青山早大教授と、米国の対中政策に関する第一人者である佐橋東大准教授のお二人に講師を依頼しました。一言で国際情勢と言ってもその範囲は広い上、日々変転し、さらにニュースソースは新聞やTVに限られてしまうため、目立つ事象だけに囚われて本質を見誤ることも少なくないと思います。そこで今回は学生に対する講義のような基礎知識も含めて丁寧にお話しいただきました。セミナー開催は11月17日、奇しくも直前にサンフランシスコで約1年ぶりの米中首脳会談が行われたこともあり、米中関係の推移予測なども含め、面白く、しかもためになる講演を聞くことができ大変有益でした。その講演の模様は現在、隊友会の公式チャンネルから録画配信を行っています。ちょっと勉強してみようかなという方々は是非一度ご覧ください。

（常務執行役　野澤真）

明けましておめでとうございます　令和６年正月

一般財団法人 自衛隊援護協会
理事長 伊藤盛夫
事務局長 小谷琢磨
〒162-0808 東京都新宿区天神町六番地 Mビル五階
電話 〇三―五二二七―五四〇〇

公益社団法人 隊友会
会長 折木良一
理事長 岩﨑茂
常務理事 徳地秀士
常務理事 岩田清文
常務理事 山村浩
理事 小池寛治
理事 小川和久
理事 北原巌男
理事 松岡宇直
理事 國分良成
理事 山之上哲郎
監事 新保雅俊
監事 田中敏明
事務局長 藤井貞文

公益財団法人 偕行社
会長 志摩篤
副会長 深山明敏
相談役 熊谷猛
相談役 森勉
理事長 火箱芳文
副理事長 岩田清文
専務理事 内田益次郎
事務局長 山越孝雄

公益財団法人 水交会
会長 杉本正彦
副会長 佐賀幾雄
理事長 河野克俊
専務理事 村川豊
事務局長 徳丸伸一

つばさ会
会長 齊藤治和
副会長 杉山良行
副会長 片山隆仁
副会長 藤田信之
副会長 谷井修平
副会長 福永充史
専務理事 小城真一

乃木神社
名誉宮司 高山亨
宮司 高山陽充

中央乃木會
會長 小堀桂一郎
副會長 耀英一
副會長 葦津和親
副會長 田尾憲男
事務局長 飯島正弘

東郷神社
宮司 福田勉

東郷会
会長 伊藤康成
副会長兼理事長 田内浩
編集長 伊藤和雄
事務局長 足立晴夫

昭和55年（1980）創業の OB会社

株式会社 タイユウ・サービス
代表取締役 林國満
取締役 佐野晃
取締役 荒川堯一
取締役 内田益次郎
監査役 髙嶋博視
監査役 森本哲生
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町三二〇 新盛堂ビル7階
☎ 〇一二〇―六〇〇―二三〇

公益社団法人 自衛隊家族会
会長 増田好平
副会長 大宮英明
副会長 福岡絢子
副会長 荒木肇
副会長 宮下寿広
理事 湯浅悟郎
理事（元陸上幕僚長） 山村浩
理事（前海上幕僚長） 井筒俊司
理事（前航空幕僚長） 阿部知己
事務局長

一般社団法人 日本郷友連盟
会長 森勉
副会長 廣瀬清一
専務理事 越智通隆
常務理事 冨田稔
理事 袴田忠夫
理事 佐藤誠喜

公益財団法人 日本国防協会
会長 中谷元
理事長 岡部俊哉
副理事長 藤島正之
副理事長 宮代知直
副理事長 村野芳信
副理事長 日高秀敏
副理事長 武居智久
副理事長 鈴木壮治
副理事長 杉山良行
事務局長 宮内信行

靖國神社
宮司 山口建史
権宮司 村田信昌
専務理事 伊藤隆
事務局長 國澤輝生

公益財団法人 大東亜戦争全戦没者慰霊団体協議会
会長 安倍昭恵
理事長 山下輝男
副理事長 岡部俊哉
専務理事兼事務局長 石井光政

公益財団法人 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
会長 藤田幸生
理事長 岩﨑茂

靖國神社崇敬奉賛会
会長 中山恭子

公益財団法人 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
会長 鈴木俊一
副会長 草刈隆郎
副会長 小池百合子
副会長 羽毛田信吾
理事長 榊枝宗男
常務理事 中村勤
常務理事 杉本順則
常務理事 保松秀次郎